

3 各部署の活動状況

| | |
|-------------------------|----|
| 診療部 | |
| 内科系診療部 | 24 |
| 外科系診療部 | 30 |
| 薬剤部 | |
| 薬剤科 | 33 |
| 診療技術部 | |
| 放射線技術科 | 34 |
| 臨床検査科 | 35 |
| 臨床工学科 | 36 |
| リハビリテーション技術科 | 37 |
| 栄養科 | 38 |
| 看護部総括 | 39 |
| 2病棟 | 40 |
| 3病棟 | 41 |
| 4病棟 | 42 |
| 5病棟 | 43 |
| 6病棟 | 44 |
| 内科系（内科、小児科、放射線科、眼科、婦人科） | 45 |
| 外科系（整形外科、脳神経外科、救急外来） | 46 |
| 外科系（消化器疾患センター） | 47 |
| 人工透析室 | 48 |
| 中央手術室 | 49 |
| 診療支援部 | |
| 地域医療支援センター | 50 |
| 医療安全管理センター | 51 |
| 事務部 | |
| 総務課 | 52 |
| 医事課 | 53 |
| DMAT | 54 |

内科系診療部

スタッフの人員構成

(令和6年4月1日現在)

当院内科系診療部は、総合内科1名、一般内科1名、消化器内科5名、循環器内科3名、腎臓内科3名、リハビリテーション科1名、小児科2名、放射線科2名の計18名が常勤で診療にあたっています。

総合内科

スタッフ紹介



部長 吉井 博

診療内容

例えば発熱がある時、何かの感染症を疑うことが多いでしょうが、感染症以外にも血液疾患、血管炎、膠原病、悪性腫瘍なども鑑別疾患にはいります。総合内科の仕事の一つはこれらの診断にあり、診断がつくと治療は担当の専門科にお願いすることが多いです。

外来診療案内

- 初診及び再診外来：月～金曜日 午前
- エコー、腹部エコー、下肢エコー、甲状腺エコー、心筋シンチ、動脈CT：随時

令和5年度診療実績

- 外来患者数（延名数）：2,329人
- 入院患者数（延名数）：3,440人

メッセージ

エビデンスに基づいたリスク評価と管理を行っています。

一般内科(令和6年5月から休診中)

診療内容

当科では、各臓器別専門診療科（たとえば、血液内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、循環器内科、整形外科、皮膚科、精神科など）の領域を越えた複数の診療科にまたがる病気を総合的に診療することに積極的に取り組みます。

令和5年度診療実績

- 外来患者数（延人数）：1,310人
- 入院患者数（延人数）：3,844人

健康管理科

診療内容

健康管理科は内科学を基礎に健康を科学的に把握し、総合的医学を実践する診療科として位置づけられ、予防医学の観点から、特に第一次予防と第二次予防としての人間ドックと健康診断を主体とした診療を行っています。

疾病の早期発見・早期対応から人間ドック・健康診断後の事後指導まで一貫した健康管理の体制を整備して受診者の満足度を高めることに重点を置いた医療を心掛けています。

外来診療案内

○外来診察：月～金曜日 午前

健康管理科の診療は月曜日から金曜日まで内科外来の診察室で実施しています。午前中は主に血液・尿検査や各種画像検査を進め、上部消化管内視鏡検査を含めた検査結果が出揃った時点で、受診者の方々に診察と結果説明及び人間ドック・健康診断後の事後指導を行っています。

日本人間ドック学会および労働安全衛生法に基づいた検査項目のほか、オプション検査として腫瘍マーカー検査や婦人科系がん検診に加え、頸部・腹部超音波検査、肺CT検査、頭部MRI・MRA検査や大腸内視鏡検査などの画像診断検査を数多く採り入れ、各臓器のがん検診に取り組んでいます。

令和5年度診療実績

○人間ドック：246人 ○各種健康診断：1,814人

メッセージ

健康寿命の延伸と生活の質の向上を目指し、自らの健康は自ら保持・増進させるとともに、人間ドック・健康診断を活用しましょう。

循環器内科

スタッフ紹介



部長 有永 豊識



御鍵 昌史



安心院 勇佑

診療内容

狭心症、心筋梗塞等の冠動脈疾患、心不全、不整脈、閉塞性動脈硬化症等の循環器疾患や高血圧、脂質異常症等の生活習慣病を主に担当していますが、それ以外の内科疾患に対しても対応します。

専門疾患以外の場合には、院内の専門医もしくは他の専門病院へ紹介することがあります。

外来診療案内

- 初診及び再診外来：月～金曜日 午前
- 心エコー検査、血管エコー検査：随時
- 冠動脈CT検査、エンドパット検査：月～金曜日（原則予約）
- 心筋シンチ検査：月～木曜日
- 心臓カテーテル検査：月・木曜日（月1回）、隔週火曜日

令和5年度診療実績

- 外来患者数（延名数）：10,697人
- 入院患者数（延名数）：7,748人
- 冠動脈造影：94件
- 冠動脈形成術：86件
- 下肢動脈形成術：19件
- アブレーション治療：47件
- ペースメーカー植え込み術：26件（PMI、新規）

※カテーテル治療、アブレーション治療は日本心血管インターベンション専門医、日本不整脈学会認定専門医に来ていただき行っています。

メッセージ

当院では、外来での通常診療に加えて、夜間休日の急性心筋梗塞、不安定狭心症の患者に対しても可能な限り対応し、緊急カテーテル検査、治療を行っております。不整脈に対しても、薬物治療だけでなく、カテーテル治療を行うことが可能です。

心臓の血管だけではなく、閉塞性動脈硬化症という足の血管病が増えており、こちらに対してのカテーテル治療も行っております。

心臓の病気を持った方にとって運動はとても重要です。しかし、心臓が悪いことで過度な負荷をかけることもできず、徐々に筋力が低下していきます。このような高齢の患者様が増えていることから、当院では外来での『心臓リハビリ』を行っております。心臓の病気を持った患者様がどの程度まで運動できるのか、どこを目標に運動するべきなのか、医師、看護師、理学療法士など多職種でのカンファレンスを行い、検査結果を元にリハビリを実行します。心臓に不安のある方、心不全を起こしたことがある方、運動が大事なのはわかっているけど日常で実践できていない方、循環器内科へご相談ください。

『いびき』はひどくないですか？睡眠時無呼吸症候群と言う、睡眠時に呼吸が止まってしまう病気があります。これは心臓にも大変負担がかかる病気であり当科でも積極的に診断を行っております。外来でできる簡易検査から、入院で行う精密検査まで当科で可能ですので、いびきがひどいと感じている、言われた方はご相談ください。

腎臓内科

スタッフ紹介



部長 有馬 隆弘



医長 上村 征央



市田 聡美

診療内容

慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、ループス腎炎、急性腎障害、慢性腎臓病（保存期～透析療法、腎移植の相談）、糖尿病性腎症、多発性嚢胞腎、薬剤性腎障害、電解質異常など。

外来診療案内

初診及び再診外来：月～金曜日…午前

○血液透析：月・水・金曜日…午前・午後

火・木・土曜日…午前

令和5年度診療実績

○外来患者数（延名数）：10,800人

○入院患者数（延名数）：6,147人

○腎生検：21件

○血液透析：7,558件 患者数：45人（導入33人）

○内シャント設置術（動脈表在化含む）：16人

○長期留置カテーテル：0件

○経皮的内シャント拡張術（PTA）：29件

○腹膜透析カテーテル挿入術：0件

○その他手術：2件

○腹膜透析患者数（実名数）：10人

メッセージ

腎疾患は症状が少なく、気づいたら進行していたというケースが多い病気です。

根本的に治療できる疾患もあれば、腎不全に至ってしまう疾患もありますので、検尿や採血などで異常をみつけた際は早めの外来受診をお願いします。受診の際は、今までの検査結果、おくすり手帳等をご持参ください。

小児科

スタッフ紹介



事業管理者 鮫島 幸二



部長 鈴木 昌也



医長 今塩屋 聡伸

診療内容

小児内科疾患

来診療案内

○初診及び再診外来：月～金曜日 午前

○9～11か月健診：月・金曜日 午後

○予防接種：火・水曜日 午後

○心臓検診：第2・4木曜日 午後

○脳波検査：随時 午後

令和5年度診療実績

○外来患者数（延名数）：3,134人

○入院患者数（延名数）：629人

メッセージ

出水、阿久根、長島地域の小児人口は1万人を超えます。

子育て世代が安心して生活できるよう、地域の唯一の小児入院医療機関としての責任を自覚し、地域の医療機関と連携しながら診療に当たります。小児に関することなら何でもお気軽にご相談ください。

放射線科

スタッフ紹介



部長 浦門 忠仁



医長 河路 広大

診療内容

CT、MRI、RI検査の読影

外来診療案内

CT、MRI、RI検査：月～金曜日

令和5年度診療実績

CT：8,218件 MRI：2,578件 RI：324件

メッセージ

画像診断の分野は、高度化、専門化が急速に進んでおり、全領域をカバーするのが難しくなっています。判断に迷う症例につきましては、遠隔画像診断を併用しており、これにより、より質の高い報告書を作成できると考えております。その際は、報告書の返信が翌日以降になる場合もありますが、ご了承ください。

リハビリテーション科

スタッフ紹介



医長 松本 愛結

診療内容

脳卒中（脳出血、脳梗塞）、骨折、切断、脊髄損傷、廃用症候群、運動発達遅滞、脳性麻痺等に対するリハビリや嚥下障害に対する嚥下機能評価、運転再開支援など。

外来診療案内

初診及び再診外来：月～金曜日・・・午前・午後

メッセージ

リハビリテーション科は怪我や病気そのものに対して治療を行うのではなく、それによって引き起こされた「機能や能力の低下（＝障害）」に対して診療を行います。また身体機能へのアプローチだけでなく、環境の工夫や福祉制度の活用などを通してQOL向上をトータルサポートいたします。

※受診は予約制で、原則かかりつけ医等からの紹介が必要になります。

消化器内科

スタッフ紹介



副院長 藤田 浩

部長 荒木 紀匡

市田 泰海

松元 琢真

大園 宏輔

診療内容

当科では腹部臓器に起因する各種疾患を扱っています。具体的には下記のとおりになります。

○消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸）

腫瘍性：食道癌、胃癌、大腸癌、胃ポリープ、大腸ポリープ

炎症性：逆流性食道炎、急性・慢性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、腸炎

○肝・胆・膵

腫瘍性：肝臓癌（肝細胞癌、肝内胆管癌）、胆嚢癌、肝外胆管癌、膵臓癌

炎症性：急性・慢性肝炎（ウイルス性、アルコール性、脂肪肝など）、急性胆嚢炎・胆管炎、急性・慢性膵炎（アルコール性膵炎、自己免疫性膵炎など）

治療内視鏡としては、消化管の早期癌に対する内視鏡的切除術、消化管出血に対する内視鏡的止血術、総胆管結石に対する内視鏡的結石除去術、閉塞性黄疸に対する内視鏡的ドレナージ術（ステント留置）、超音波内視鏡ガイド下治療（胆道ドレナージ）などを行っています。

外来診療案内

○初診及び再診外来（予約制）：月～金曜日 午前

○上下部消化管内視鏡検査（胃カメラ、大腸カメラ）、腹部エコー検査：月～金曜日

○胆道膵管造影検査(ERCP)、超音波内視鏡検査（EUS）：主に水曜日

○カプセル内視鏡検査、ダブルバルーン小腸内視鏡検査（随時）

※各種内視鏡検査は原則予約制ですが、緊急時においてはその限りではありません。

※早急に検査、治療が必要な患者さんの場合は、休日・夜間でも緊急処置を実施できる体制をとっていますので、ご相談ください。

令和5年度診療実績

○外来患者数（延人数）：8,372人

○入院患者数（延人数）：9,705人

○入院患者数（実人数）：737人

○上部消化管内視鏡：3,077件

○下部消化管内視鏡：943件

○超音波内視鏡検査：94件

○内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）：118件

○内視鏡的大腸ポリープ切除術：453件

○内視鏡的粘膜下層剥離術（食道・胃・大腸ESD）：32件

○内視鏡的胃瘻造設術（PEG）：50件

○内視鏡的消化管出血止血術：66件

○内視鏡的ステント留置術（消化管・胆道）：63件

○内視鏡的異物除去術：18件

メッセージ

令和5年度は常勤医師5名、非常勤医師3名の体制で診療を行いました。

当科で扱う疾患は癌などの悪性疾患から良性の炎症性疾患まで広範囲にわたっています。早期癌に対する内視鏡治療の他、進行癌に対する化学療法、炎症性腸疾患に対する生物学的製剤治療、便秘など慢性疾患の治療など幅広く行っています。

診断・治療に難渋する患者様については、鹿児島大学病院消化器内科と密に連携をとり、患者さんにとって最良の医療を提供することを心懸けています。

当院は日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導連携施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本肝臓学会関連施設に認定されており、若手医師のキャリアアップにも適した施設です。

外科系診療部

スタッフの人員構成

当院外科系診療部は、外科4名、脳神経外科1名、整形外科4名、眼科1名、麻酔科2名の計12名が常勤で診療にあたっています。

外科

スタッフ紹介



院長 花田 法久



外科系診療部長
上村 眞一郎



部長 山下 晃平



医長 松本 嵩史

診療内容

専門医が外来、入院、手術に対応しています。非常勤医師として、隔週で木曜日に乳腺外科の上村医師、金曜日に呼吸器外科の吉本医師が対応します。夜間、休日の救急外来も対応し、いつでも緊急手術が出来る体制をとっています。

- 消化器癌全般（胃癌、大腸癌、食道癌、肝臓癌、胆道癌、膵癌など）
- 甲状腺腫瘍や乳癌などの乳腺・内分泌腫瘍
- 肺癌や気胸などの胸部疾患
- ヘルニア（鼠径、大腿、腹壁癒痕など）、胆石症、虫垂炎、腸閉塞などの良性疾患

外来診療案内

- 外科：月曜日から金曜日午前
- 乳腺外来：第1、3、4木曜日午前
- 呼吸器外科：第2、4金曜日午後
- 緩和ケア外来：毎週水曜日17時
- ※緊急の場合は時間外でも対応します

令和5年度診療実績

- 手術件数：261件
- 外来化学療法：676件

メッセージ

当院におけるがん診療の特色として、内視鏡治療、手術、化学療法を組み合わせた集学的治療を行うことができます。根治性、安全性を考慮し、最良の治療をより多くの患者に受けていただけるように力を尽くしたいと考えています。

脳神経外科

スタッフ紹介



部長 瀬戸 弘

診療内容

頭部外傷、脳卒中、脳腫瘍、頭痛、眩暈、てんかん

外来診療案内

常勤医一人での対応となります。今村医師による火曜日のメモリークリニック、池田医師による水曜日の外来診療支援は継続しています。

令和5年度診療実績

- 入院患者：170人
 - 外来患者：新患620人、再来患者3,918人、脳ドック65人
 - 手術件数：41件（開頭術10件、穿頭術12件、内頸動脈内膜剥離術4件、血管内治療6件、腰椎－腹腔シャント3件、脳室－腹腔シャント3件、その他3件）
- ※内頸動脈内膜剥離術、血管内治療は、済生会熊本病院加治医師に依頼して施行

メッセージ

常勤医一人のため、特に夜間・休日の急患対応は困難となっています。主に出水郡医師会広域医療センターと連携しており、場合によっては水俣総合医療センターに対応をお願いすることもあります。今年度もその体制を継続予定です。

整形外科

スタッフ紹介



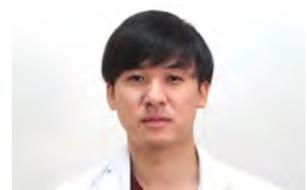
中村 憲一（副院長待遇）



医長 川内 健寛



藤善 大成



亀之園 智大

診療内容

- 急性期：多発外傷、多発骨折、スポーツなどによる、骨折、靭帯損傷
- 高エネルギー外傷（転落、交通事故など）：脊椎骨折、脊髓損傷、骨盤骨折
- 高齢者の転倒による骨折：大腿骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折など
- 慢性期：原発性関節症（肩、肘、手関節、股関節、膝関節など）
- 関節リウマチ性関節症
- 変形性脊椎症（頸椎症性脊髓症、胸髄症、腰部脊柱管狭窄症など）
- 小児：先天性股関節脱臼、内反足、斜頸、骨、軟部腫瘍

外来診療案内

- 月・木曜日の午前中（火、水、金は、手術日）
- 特に、開業医で治療に難渋する症例のご紹介をお待ちしております。

令和5年度診療実績

- 外来患者数（延名数）：8,928人
- 入院患者数（延名数）：20,343人
- 手術件数：362件（骨折、関節症、脊損、脊髓症など）

メッセージ

可能な限り、手術施行しました。スポーツ教室など、地域の子供たちの指導に尽力したいと思っております。また、骨粗鬆症教室など、高齢者に対する地域活動も考えております。

眼科

スタッフ紹介



診療内容 部長 松尾 由紀子

白内障、緑内障、糖尿病網膜症など眼科の一般的な疾患を主に診療しています。専門的な治療が必要な場合は他の病院へ御紹介し、専門病院と連携を取りながら治療を行っています。

外来診療案内

症状の急変や緊急の疾患以外では予約の患者さんを優先して診察しています。初診・再診とも基本は予約制のため待ち時間は長くなってしまいますが当日受診も可能です。

○初診及び再診外来：月曜日～金曜日の午前 ○手術：火曜日午後

○視野検査や術前検査などの特殊検査とレーザー治療や処置：月・水・木・金曜日の午後

令和5年度診療実績

○外来患者数（延名数）：3,516人 ○入院患者数（延名数）：143人

メッセージ

当科では白内障手術と翼状片手術を入院で行っております。手術までの待機期間は1.5～3ヶ月と変動があり、術後の完全な視力改善までには約2ヶ月かかります。そのため、運転免許更新前に視力低下の自覚がある方は、なるべく早めに眼科を受診されることをお勧めいたします。

外来受診の予約は平日14時以降に電話でも受け付けております。よりスムーズに診察を受けていただくため、緊急や当日受診希望の場合を含め、事前の電話連絡をお願いします。

麻酔科

スタッフ紹介



部長 田尻 晃彦



副部長 中筋 あや

診療内容

予定及び緊急手術の麻酔に対応、患者が安全、安心、安楽に手術を受けられるよう配慮しています。

外来診療案内

午前8時30分から、主に手術を受ける患者の術前診察を行っています。

新規のペインクリニックの患者のお引き受けしておりません。

令和5年度診療実績

令和5年度の全手術件数は714件、うち緊急手術は132件でした。麻酔担当症例の実績は、全身麻酔が524例（脊麻、硬麻併用症例を含む）、硬膜外麻酔または脊髄くも膜下麻酔単独は14例、合計で538例でした。局麻下手術は176例でした。総じてここ3年間の症例数はほぼ横ばい状態です。

メッセージ

麻酔科医は、手術室看護師や各科医師と協力し、薬剤科や放射線科、臨床工学科、臨床検査科とも連携して、手術チームとして活動しています。令和5年度も常勤麻酔科医2人、非常勤麻酔科医2人の体制で対応できました。マンパワーは充足したため、平日夜間や休日の緊急対応も遅滞なく対応可能となりました。今後の診療実績の上積みを目指すところです。他には、救急救命士の気管挿管実習も継続中です。今後も地道に地域医療に貢献していきたいと考えています。

薬剤科

令和6年度活動目標

病棟薬剤業務及び薬剤管理指導業務、退院時服薬指導、入院時持参薬の確認及び管理を含む病棟業務の充実を図るとともに、レジメン管理に基づく抗がん剤の無菌調製、TPNの無菌調製、TDM解析及び投与設計、外来患者の検査前等の服用薬確認、医薬品情報管理業務を通じて、チーム医療を推進し、患者に安全で効果的な治療を提供できるよう貢献していきます。

令和5年度総括

病棟担当薬剤師の病棟での活動時間を確保することで、薬剤の専門家として医師や看護師等各スタッフへの情報提供を積極的に行い、医薬品の適正使用に貢献しています。また、入院患者への薬剤管理指導及び退院時服薬指導を行い、患者に応じた薬物療法の支援を行っています。NSTチーム、感染対策チーム、褥瘡対策チーム等の一員としても活動し、チーム医療に貢献しています。さらに、外来がん化学療法の実施の安全性及び質向上を目的とし、保険薬局や他の医療機関との連携強化を図りながら連携充実加算の算定にも取り組んでいます。

スタッフ紹介

薬剤師：9名 助手：3名 計12名

<資格認定取得>

日本医療薬学会がん専門薬剤師：1名

日本医療薬学会がん指導薬剤師：1名

日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師：2名

日本医療薬学会医療薬学指導薬剤師：1名

NST専門療法士：3名

ICD：2名

日本糖尿病療養指導士：2名

認定実務実習指導薬剤師：4名

日病薬病院薬学認定薬剤師：4名

医療情報技師：1名

医療環境管理士：1名

研修実績

日本医療薬学会年会

日本薬学会九州支部大会

日本糖尿病学会

日本静脈経腸栄養学会学術集会

日本臨床腫瘍薬学会学術大会

日本化学療法学会学術集会

日本褥瘡学会

医療安全管理者養成研修

日本腎臓病薬物療法学会・学術集会

日本環境感染学会総会・学術集会

医療情報学会連合大会 等



メッセージ

医療スタッフとの協議・連携によるチーム医療を推進し、患者の状況に的確に対応した医療を提供できるようがんばっています。

また休日・夜間を含む24時間体制で、地域の救急医療に対応しています。

放射線技術科

令和6年度活動目標

- ・ 各モダリティの質の向上を図る。
- ・ 医療安全の遵守に努める。

令和5年度総括

通常業務に加えて、令和5年度は血管造影装置（Trinias DI50GC-40）が2023年8月に導入され、画質の向上、被ばくの低減等、画像診断に貢献しました。

また、同じく外科用イメージ（OPESCOPE ACTENO FDP）が手術室に導入され、外科用イメージの2台体制にて画質、被ばく低減、検査効率が向上し、整形外科等の手術支援に貢献しております。

年度末にマンモ認定技師の乳がん検査（エコー）研修を行い、当院の女性マンモ技師2名による診断エコー体制が整いました。

また、2月10日には、鹿児島県放射線技師会の要請にて令和5年度鹿児島県原子力防災訓練に5名参加しました。

スタッフ紹介

診療放射線技師：11名 看護助手：1名 計12名

<資格認定取得>

シニア放射線技師：2名

アドバンス放射線技師：1名

医用画像精度管理士：3名

放射線機器管理士：3名

放射線管理士：3名

検診マンモグラフィ撮影認定技師：3名（女性2名）

医療経営士2級：1名

医療経営士3級：2名

放射線被ばく相談員：1名

手術支援認定技師：1名

臨床実習指導教員：2名

Ai認定技師：2名

放射線取扱主任1種：1名



研修実績

乳がん検査（エコー）研修（令和4年3月18日～29日まで）

令和5年度 鹿児島県原子力災害医療研修（原子力災害の医療）

第78回デジタルマンモグラフィ品質管理講習会

メッセージ

今後とも、質の高い画像診断をめざすとともに、被ばくの低減に努め、出水地区の医療に貢献できるように日々努力してまいります。また、医療安全、感染対策、コスト意識を高く持ちながら、日々の業務を遂行してまいります。

チーム医療の一員として他職種との連携を図り、思いやりをもった医療を目指してまいります。

臨床検査科

令和6年度活動目標

- ・ 検査科の業務の見直しでより無駄を省き、効率化を目指す。
- ・ 検査精度の質を高め、データの信頼性を上げる。
- ・ 常に最新の情報、技術の習得に努め患者さんに有益な検査が出来るよう心がける。

令和5年度総括

検体検査は、緊急検体（検血・生化学）は30分以内結果報告、入院検体は8時30分までの結果報告を目標としています。生理検査は、腹部超音波認定士、心・血管超音波認定士の育成を図っています。中央採血室の運用でも検査技師の採血業務を実施し、ICTなどのチーム医療に貢献しています。新型コロナウイルス感染症に対しては、24時間体制で検体採取から検査までを院内で実施しています。

スタッフ紹介

臨床検査技師：13名

助手：1名

診療放射線技師：1名 計14名

<資格認定取得>

NST専門療法士：1名

認定一般検査技師：1名

超音波認定士（腹部）：1名

2級臨床検査士（微生物）：1名

緊急臨床検査士：1名

タスク・シフト/シェアに関する講演会終了者：5名

心電図検定2級者：1名

上級バイオ技術者認定資格：1名



研修実績

第19回 鹿児島県医学検査学会参加：6名

鹿児島県臨床検査技師会研修会参加：6名

タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会：6名

メッセージ

検体検査部門では、正確なデータを迅速（30分以内）に報告できるよう努力し、院内での新型コロナウイルス感染症関係は24時間対応し、検体採取からPCR検査報告をすべて迅速に処理します。

生理部門では、患者への接遇に努めながら的確にかつ迅速に報告できるよう努力しています。

臨床工学科

令和6年度活動目標

- ・ 感染状況等に対応すべく安全な医療を提供する。

令和5年度総括

高気圧酸素の年間件数は697回で、脳梗塞、整形外科領域の頸椎、骨髄疾患が増加しています。タスクシフトに伴うDrや看護師の業務軽減に協力し、安心安全な医療を提供すべく内視鏡、ペースメーカー業務を行っています。

スタッフ紹介

臨床工学技士：7名

<資格認定取得>

人工透析技術認定士：3名

3学会合同呼吸認定士：1名

植込型心臓不整脈デバイス認定師：1名



中央機器管理装置

第26回日本医療マネジメント学会

臨床工学の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修：2名

メッセージ

新型コロナウイルス感染症の蔓延で基礎疾患のある患者さんの重症化が叫ばれる中、当科としても呼吸不全に対応すべく人工呼吸器やハイフローセラピーの拡充を図り、病院関係部署の御協力の元、十分な台数を揃えることが出来ました。

臨床工学科は、数年前から増員して体制を整え、看護師が行っていた業務内容を臨床工学技士で補うことで看護師の負担軽減や医療機器の扱いを熟知した技師が操作することで安心安全な医療を提供に貢献しています。

リハビリテーション技術科

令和6年度活動目標

- ・ 部署全体の平均実施単位数の増加、算定可能な加算の積極的な算定により収益増に貢献する。
- ・ 他部署や院外関係機関等との連携を強化し、円滑な退院支援に貢献する。

令和5年度総括

新型コロナウイルス感染症が5類に移行しましたが、状況に応じた感染対策を行い、診療を実施してきました。できるだけ患者診療時間の確保に向け、業務の見直しに取り組んでいます。院内外の関係職種の方にもご協力いただきながら、カンファレンス、住宅改修指導も再開しています。

スタッフ紹介

理学療法士：18名 作業療法士：14名 言語聴覚士：4名 助手：1名 計37名

<資格認定取得>

認定理学療法士（脳卒中）がんのリハビリテーション研修会修了

心臓リハビリテーション指導士

心不全療養指導士

心電図検定2級、3級

3学会合同呼吸器療法認定士

医療安全管理者 感覚統合療法認定Aコース修了

停止車両評価インストラクター 障害者スポーツ指導員中級

上田法治療認定セラピスト 認知症ライフパートナー2級、3級

リンパ浮腫指導士 ケアマネージャー 転倒予防指導士

福祉住環境コーディネーター2級、3級

BLSプロバイダコース資格

児童発達支援士 地域包括ケア・介護予防推進リーダー

フレイル対策推進マネージャー 臨床実習指導者研修終了



研修実績

各所属県士会主催研修会

日本循環器学会学術集会

日本ボバース研究会九州ブロック研修会

日本臨床栄養代謝学会

「栄養サポートチーム専門療法士」認定規程に定める臨床実地修練 高次脳機能研修会

停止車両評価インストラクター講座

BLSプロバイダコース

FIM研修会 感覚統合療法初級、応用コース

災害リハビリテーション研修会

自治体病院協議会オンラインセミナー

メッセージ

より良いリハビリテーションの提供ができるよう、診療時間の確保のため業務改善も継続して取り組んでいきます。入院時に退院後までを見据えて院内外の方々と連携して退院支援を行うよう心がけるよう指導しています。リハビリテーション広域支援センターとしても、地域住民の支援にも貢献できるよう取り組んでいきます。

栄養科

令和6年度活動目標

- ・ 常に清潔で安全な食事を提供できるよう、調理室の衛生環境保持を行う。
- ・ 他職種連携の栄養管理を実践し、患者の栄養状態改善に貢献する。
- ・ 業務の振り返りと改善に取り組み、より良い給食の提供を追求する。

令和5年度総括

活動目標を念頭に置き、栄養士及び調理員がそれぞれの目標に取り組み、達成することが出来た。今年度は新たに4名の調理職員を採用し、安心・安全な給食を安定して提供することができた。

スタッフ紹介

管理栄養士：3名 栄養士：3名 調理員：13名 計19名

<資格認定取得>

NST専門療法士：2名

研修実績

日本臨床栄養代謝学会

日本病態栄養学会

鹿児島県栄養士会

北薩地域集団給食施設連絡協議会



メッセージ

今後はさらに知識・技術を深め、チーム医療の一員として貢献していきます。

患者さんに寄り添い、食事提供を通じて心身の健康をサポートするとともに、衛生的で安全な食事を安心して召し上がっていただけるよう、栄養科一同、心を込めて取り組んでまいります。

看護部総括

令和6年度活動目標

- ・科学的看護論に基づき、患者を生活者と捉えた看護の実践ができる。
- ・業務改善活動を継続し、健康で安全な職場づくりを目指す。
- ・組織貢献に繋がる自己研鑽、自己啓発を行うことができる。

令和5年度総括

令和5年度は新型コロナウイルス感染症と闘った経験を糧に、本来の看護ができる体制の構築に取り組みました。看護部が基盤としている科学的看護論の学習を深めて事例検討会を開催し、自分達の看護を振り返る機会を持ちました。また、業務改善活動にも取り組み、働き方についても検討を進めました。

スタッフ紹介(人員構成)

看護師：177名 准看護師：9名 助産師：4名 介護福祉士：8名 看護要員：43名 計241名

<資格認定取得>

| | | |
|--------------------|------------------------|--------------|
| 認定看護管理者：1名 | 救急看護認定看護師：1名 | 感染管理認定看護師：1名 |
| 緩和ケア認定看護師：1名 | 皮膚・排泄ケア認定看護師：1名 | DMAT隊員：3名 |
| 災害支援ナース：11名 | 日本糖尿病療養指導士 | NST専門療法士 |
| 透析療法指導看護師 | 透析技術認定士 | 認知症ケア専門士 |
| 二種衛生管理免許 | 介護支援専門員 | 内視鏡技師 |
| 介護支援専門員 | 住環境コーディネーター2級 | |
| ACLS（二次救命処置）プロバイダー | JNTEC（標準外傷看護コース）プロバイダー | |

研修実績

【主な研修】

感染管理認定看護師教育課程（A課程）：1名
認定看護管理者教育課程ファーストレベル：2名
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修：4名
ACP研修：4名
認知症ケア研修：4名
看護研究研修：4名
褥瘡管理に関する研修：4名
入退院支援に関する研修：4名
日本褥瘡学会参加：1名
日本静脈経腸栄養学会：1名
災害支援ナース研修受講：6名



メッセージ

令和5年度は、緩和ケア認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、認定看護管理者の3名の認定看護師が誕生しました。更に、感染管理認定看護師教育課程にも1名参加しています。令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類になりましたが、この数年で失われた日常を、看護部が大事にしている「思いやりとやさしさを持って喜ばれる看護をめざします。」という基本理念に立ち戻り、専門性を活かして院内の看護の質の向上や地域貢献に向けた活動を実践していきたいと思っております。

2病棟

令和6年度活動目標

- ・ 退院支援強化のための受け持ち看護師として退院後の生活状況を踏まえた看護実践ができる。
- ・ 病棟内のサポート体制を活用し、働きやすい環境を整える。
- ・ 学ぶ意識を持ち続け、ACP・認知症・身体抑制最小化について学びを共有できる。

令和5年度総括

新型コロナウイルス感染症が5類になり、感染症病棟から地域包括ケア病棟として再稼働した。

在宅復帰率72.5%以上、直接入院割合、転棟割合、緊急入院数など令和4年の診療報酬改定に則り運営し、クリアすることができた。短期入院の眼科手術、鼠径ヘルニア手術、抜釘術、シャントPTA、テンコフカテーテル交換など様々な処置、術前後の管理を行うと共にリハビリやMSWなど多職種間と連携、協働し、患者さんが地域および元の生活に戻れる援助を行い、地域包括ケア病棟の役割を遂行できた。

スタッフ紹介

看護師：15名 介護福祉士：2名 看護補助者：1名
ベッドキーパー業務：1名 事務補助者：1名 計20名
<資格認定取得>
内視鏡技師資格：1名

研修実績

「医療現場におけるストレスマネジメント」：2名
実践！アドバンス・ケア・プランニング（ACP）：1名
看護科学研究会令和5年度宮崎研修（Cコース）：1名
人工呼吸器ケアはじめの一步研修：1名
入退院支援研修：1名
看護研究の基礎研修：1名
看護管理者第2回ACPの推進における倫理的課題への対応研修：1名
第83回内視鏡学会：1名
鹿児島県肝炎コーディネーター養成講座：1名
心電図検定：1名
「ACPと意思決定支援」第2弾 援助的コミュニケーション研修：3名
鹿児島県肝疾患診療連携ネットワーク研修会：1名
「急変させない正確なアセスメント」セミナー：1名
出水地区でのACP周知の取り組み：3名
令和5年度 看護職員認知症対応向上研修Ⅲ：1名



メッセージ

令和6年6月からの診療報酬算定要件変更に伴い、地域包括ケア病棟として、急性期病棟からの転入受け入れ、病床の確保と在宅への退院支援の強化が求められています。在宅復帰、社会資源活用と地域との連携が必要であり、受け持ち看護師として退院後の生活状況を踏まえた看護実践ができるように取り組んでいきます。ACP・認知症・身体抑制最小化について学びを共有し実践に活かします。

3病棟

令和6年度活動目標

- ・ 受け持ち看護師としての関わりを持ち、看護に活かすことができる。
- ・ 苦手意識を軽減し、働きやすい環境を整える。
- ・ 学ぶ意識を持ち続け、学んだことを自部署で活かすことができる。

令和5年度総括

管理実践で業務改善に取り組み、業務の洗い出し・振り分けを行い、新たな業務表作成を行いました。スタッフからも「動きやすくなった」との評価があり、働きやすい環境を作ることができました。学習会担当者が計画し、患者カンファレンスやミニ学習会を実施することができました。退院時、看護要約に看護上の問題点・継続してほしいケアの個別的な記録ができており途切れのない看護が提供できるよう努めました。また、準備も退院前にできていることが増えスタッフの意識が向上したと考えます。自主的な研修参加も90%できました。今後もスタッフが学ぶ意識を持ち続けられるよう働きかけて行きたいと思えます。

スタッフ紹介

看護師：22名 准看護師：2名 介護福祉士：1名 看護補助者：5名 事務補助者：1名 計31名

<資格認定取得>

心不全療養指導士：1名

感染管理認定看護師研修終了者：1名

災害支援ナース：3名

研修実績

心不全ネットワークについて：8名

感染管理認定看護師研修：1名

看護研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：1名

新人看護職員卒後教育担当者研修：1名

看護記録：1名

新人研修 専門職としての第一歩：1名

循環器・呼吸器の臨床判断：5名

実践！アドバンス・ケア・プランニング（APC）：1名

褥瘡：1名

看護職員認知症対応向上研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：2名

口腔ケアWEBセミナー：2名



メッセージ

3病棟は、新生児から超高齢者まで幅広い年齢の患者さんへ専門的な看護を提供するために、日々の学習を重ね、専門的知識を深めています。入退院を繰り返す患者さんも多いことから、生活の振り返りを行い、改善することで症状の悪化・進行を防げるように受け持ち看護師が中心となり関わっています。

今後も相手の立場に立った思いやりのある看護を提供し、市民の方々に喜んでいただけるよう努力していきたいと思えます。

4病棟

令和6年度活動目標

- ・ 受け持ち看護師として患者の退院後の生活を意識した看護展開ができる。
- ・ 看護補助者と共働し、療養環境の改善、看護ケアの質の向上を目指す。
- ・ ペアナーシングを活かし、安全安心な医療提供ができる。
- ・ 専門的知識、経験を養い、消化器内科・外科病棟における看護の知識を高め、統一した退院指導ができる。

令和5年度総括

病床稼働率平均94%、平均在院日数も12日前後と短い中、令和5年度は『受け持ち患者さんと向き合う時間を作ろう』をテーマに取り組みました。日々の業務のなかで受け持ち患者さんとの関わる時間を優先的に確保することで、スタッフ1人1人の受け持ち看護師としての意識が向上し、果たすべき役割を再確認できました。病棟の特性として、消化器にまつわるがん患者も多く、緩和ケア認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師との連携を取りながら、より良いケアへの提供を心がけています。

スタッフ紹介

看護師：27名 准看護師：1名 介護福祉士：1名 看護補助者：7名 事務補助者：1名 計32名

ベッドキーパー：2名

<資格認定取得>

NST専門療養士：1名

認知症ケア専門士：3名

透析技術認定士：2名

研修実績

第25回日本褥瘡学会学術集会

第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会

採用・定着・離職防止について

医療現場におけるストレスマネジメント

第3回看護研修会「ACPに必要な援助的コミュニケーション」



メッセージ

4病棟は主に外科、消化器内科の病棟で消化器に関わる幅広い臓器の疾患が対象となり、がん患者さんが多いことも特徴です。手術や内視鏡検査・治療、化学療法や緩和ケアなど、ライフステージにおいても周術期から終末期まで様々なステージの方がいらっしゃいます。病気や治療に向き合う患者さんや御家族の気持ちにより添い、安心して治療が受けられるよう外来部門との連携や多職種とも共働し、療養環境の改善、看護ケアの質の向上を目指し、退院後の生活まで見据えた看護が提供できるようスタッフ一同、努力して参ります。

5病棟

令和6年度活動目標

- ・ 患者を生活者として捉え受け持ち看護師としての役割を果たすことができる。
- ・ 業務内容を明確にして安心・安全に働ける環境を整える。
- ・ 積極的に研修参加を行い自己研鑽に努める。

令和5年度総括

新型コロナウイルス感染症患者や高齢者の入院が増えている中で、急性期病棟としてスムーズな受け入れができるようにベッドコントロールを行った。また、面会制限が継続している状況で、患者や家族に寄り添って思いを傾聴する姿勢を心がけ丁寧に対応した。

受け持ち看護師としての意識を高め、受け持ち患者への責任を果たせるように取り組んだ。

自己研鑽に対してはスタッフ全員で取り組み、研修参加や動画視聴など活用して知識を増やした。

スタッフ紹介

看護師：25名 准看護師：2名 介護福祉士：2名 看護補助者：6名

ベッドキーパー業務：2名 事務補助者：1名 計35名

<資格認定取得>

消化器内視鏡技師：1名 災害支援ナース：1名

研修実績

認知症研修：1名

看護科学研究会：1名

入退院支援（基礎・応用）：各1名

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）：1名

看護記録：1名

看護必要度研修：1名

令和5年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル：1名

救急看護：1名

術後せん妄について：1名

出水郡医科歯科連携研究会：2名

ストレス・マネジメント：2名

人工呼吸器セミナー（Web）：1名

呼吸器療法セミナー：2名

鹿児島県肝疾患診療連携ネットワーク研修会：1名



メッセージ

5病棟は脳神経外科、整形外科、総合内科の急性期病棟です。高齢者の入院が多く、疾患によっては入院前後で生活が異なる状態となるケースもあり、多職種との連携を図る必要があります。また、退院に向けては回復期リハビリテーション病棟との連携も重要となります。

患者さんの不安を軽減しながら、少しでも患者さんやその家族が望む生活が送れるよう、多職種との連携を図り支援するよう心がけていきます。

6病棟

令和6年度活動目標

- ・ 受け持ち看護師としての役割を認識し、多職種と連携しながら個別的な退院支援につなげる。
- ・ 看護師、介護福祉士、看護補助者間のサポート体制の強化を図り、安心・安全な看護を提供する。
- ・ 自己研鑽、自己啓発に努め、学び続ける姿勢を維持する。

令和5年度総括

令和5年4月から回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰを取得し、在宅復帰率70%、新規入院重症者割合4割以上、重症患者の退院時の回復度（4点以上回復が3割）等の施設基準をクリアできた。OT、PT、ST、MSW、ケアマネージャーと連携し、入院・転入から10日以内の初期カンファレンスで方向性の確認、合同カンファレンスで進捗状況の確認、退院前カンファレンスで退院に向け環境調整や支援を行い、患者に安心・安全に過ごしてもらえる環境の提供に努め、回復期リハビリテーション病棟の役割を果たした。

スタッフ紹介

看護師：16名 准看護師：1名 介護福祉士：3名 看護補助者：7名 事務補助者：1名 計28名

<資格認定取得>

介護支援専門員：2名

研修実績

医療現場におけるストレスマネジメント：3名

看護研究Ⅰ～Ⅲ：1名

看護記録：1名

入退院支援（基礎・応用）：2名

第25回 褥瘡学会学術集会：1名

ACPIに必要な援助的コミュニケーション：3名

出水地区でのACP周知の取り組みについて：3名



メッセージ

6病棟は回復期リハビリテーション病棟です。

入院・入棟から10日以内に初期カンファレンスを行い、患者・家族の思いを確認し、患者さんが安全・安楽に過ごせる環境の提供と多職種と連携・協働しながら、生活の場である病室の環境調整や、ADL拡大に向けた支援を行っています。

また、定期カンファレンス、退院時カンファレンスでの受け持ち看護師の役割を重視し、個々の患者さんに合った退院支援に取り組めます。

内科系(内科、小児科、放射線科、眼科、婦人科)

令和6年度活動目標

- ・ 多職種・病棟と連携し、協働体制とともに業務の効率化を図る。
- ・ 患者が住み慣れた環境での療養生活を継続できるよう支援する。
- ・ 個人がスキルアップ内容、分野を明確にし計画的に実行できる。

令和5年度総括

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、外来患者の訴えに丁寧に対応することを心がけ、不安を抱えながら毎日を過ごす患者をスタッフ全員で身近に支えていくことを目標とし、多職種と連携しながら支援、看護につなげてきました。さらに、休日小児科診療におけるA I問診導入による待ち時間短縮、業務効率化を図りました。

また、地域災害、救急・循環器治療に関連した専門的知識を学び、地域医療につながるよう研鑽にも取り組みました。

スタッフ紹介

看護師：21名 准看護師：3名 看護補助者：2名 メディカルクラーク：7名 事務補助者：3名
計36名

<資格認定取得>

助産師免許取得者：1名 災害支援ナース：1名

研修実績

看護補助者の活用推進のための看護管理者研修：2名

入退院支援(基礎)：2名

九州ブロックHIV/AIDS基礎研修(オンライン)

看護管理者研修第2回ACPの推進における倫理的課題への対応

リードスペースメーカー勉強会：5名

マンジャロ使用方法：12名 心臓の解剖について：5名

ALS成人急変時対応：8名 小児BLS：12名

意識レベルの観察：11名 レクビオ説明会：15名

感染手指衛生・エプロンの着脱：11名

ヒヤリ・ハット入力方法：7名



メッセージ

内科系外来は、総合内科・循環器内科・腎臓内科・健康管理科を中心として、地域における救急医療から予防医療、さらに現代重視されている生活習慣に関わる疾患の診療を担っています。

また、糖尿病代謝内科・呼吸器内科・血液内科・脳神経内科・動脈硬化外来・心臓血管外科は週1～2回の非常勤医師が診療を行っており、多種にわたる専門的疾患患者が安心して安全に診療をうけて頂けるような支援・看護提供を心掛けています。

加えて小児科・眼科・放射線科・婦人科の診療も担い、特に循環器関連では診断、治療を目的とした検査や緊急性も高いため、専門的な知識や技術、最新治療・看護学を学びながら自己研鑽とともに看護のレベルアップに努めていきます。

今後、さらにA I問診の活用を推進し、診療に必要な情報管理を行いながら、業務の効率化・診察時間短縮につなげていく予定です。また多職種と連携しながら、より良い支援、看護は何か、安全な医療提供に努めていくよう学びを深め、継続した支援につなげていきます。

外科系(整形外科、脳神経外科、救急外来)

令和6年度活動目標

- ・ 外来間での連携の強化を図り、業務改善につなげていく。
- ・ 他外来や病棟との連携をはかり、協力体制や継続看護が展開できる。
- ・ 年間を通して個人がスキルアップのためのアクションを起こし、自己研鑽、自己啓発を行うことができる。

令和5年度総括

業務の見直しについては、外来全体で応援体制を進めており、内科系外来を含めた見直しが必要と思われる。

脳外科外来は、救急外来に近いこともあり、積極的に救急外来の応援に行っている。

病床が多いときに、病棟への応援を行った。

外来の空き時間に応援に行く意識は定着したと思われる。

退院後初受診の関わりが定着して、患者の生活状況が見える記録が増えている。

スタッフ紹介

整形外科外来

看護師：3名 メディカルクラーク：2名 事務補助者：2名

脳外科外来

看護師：2名 メディカルクラーク：2名

救急外来

看護師：7名 計18名

<資格認定取得>

救急看護認定看護師：1名

災害支援ナース：3名

DMAT隊員：1名



研修実績

災害看護レベルアップ研修

皮膚・排泄ケア認定看護師認定審査

メッセージ

整形外科では、加齢による関節の痛みや運動機能障害、突然の病気や怪我によって生じた麻痺や運動機能の回復や治療を、リハビリテーション科と協力しながらサポートします。

脳神経外科では、神経の中核である脳の手術や血管内治療前後の方や、脳卒中の再発防止のために定期的な受診と内服治療のサポートを行っています。

手術を控えて不安を抱いている方、慢性的な痛みや運動制限など苦痛を抱えて生活されている方に寄り添える看護を目指しております。

救急外来では、急な病気や交通事故、外傷などに迅速な対応ができるよう心掛けて、さらなる救急体制の充実を図ります。

外科系(消化器疾患センター)

令和6年度活動目標

- ・ 患者カンファレンスを病棟・他職種へつなげよう。
- ・ みんなで取り組む業務改善。
- ・ 年間スケジュールにそって自己研鑽に励もう。

令和5年度総括

令和5年度は4,000件を超える内視鏡検査が行われ、安心、安全に検査が受けられるように丁寧な説明、案内、介助を心がけてまいりました。また、定期的な患者カンファレンスを行い、スタッフ間で共通した認識で、患者さん1人1人に寄り添った看護ができるように努力しております。

令和5年度は緩和ケア認定看護師資格に1名合格し、より一層、専門性の高い患者サポートができるようになりました。

スタッフ紹介

看護師：14名 メディカルクラーク：6名 事務補助者：1名 計21名

<資格認定取得>

緩和ケア認定看護師：1名

研修実績

看護協会 管理研修：1名

アピアランスケア研修会：1名

ACPに必要な援助とコミュニケーション：3名

採用・定着・離職防止について：1名

2023年度 出水地区多職種交流研修会：1名

災害看護レベルアップ研修：1名

鹿児島県アピアランス支援連帯会議、研修講演会：1名

ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム：1名

第83回九州消化器内視鏡技師学会 観往知来～明日につなぐ内視鏡～：1名



メッセージ

消化器疾患センターでは外科、消化器内科、呼吸器外科、乳腺外科、肝臓内科の診療科があります。出水市の高齢化率は全国平均を上回っており、通院が大変であったりお薬の管理に心配される方も多くなりました。私たち外来スタッフは、患者さんが住み慣れた土地で安心して生活できるよう、医師、薬剤師、相談員やケアマネージャー、訪問看護師といった多職種と協力し、病院と在宅をつなぐ役割があります。まだまだ行き届かないところもあるかと思いますが、「当院に来てよかった」「安心した」と思っていただけるようにスタッフ一同、日々研鑽を積み努力してまいります。

人工透析室

令和6年度活動目標

- ・ 感染しない、させないの意識を高めていきます。
- ・ 相手の気持ちに寄り添った言葉や行動で良い関係性を築いていきます。
- ・ ペアナーシング手順の定着化により、安心・安全な環境を整えていきます。

令和5年度総括

今年度は、透析患者の新型コロナウイルス感染症患者も増加しフルPPE（個人用防護具）での対応も増え、感染に対する手指消毒への意識も高まっている。今後も、スタッフへの指導継続とともに、患者への指導も継続していきたい。

お互いの言動や行動を指摘し合い、また、患者さんへの対応についても情報共有し、お互いに声を掛け合うことで良い関係性が築けていった。今後も声を掛け合いながら相手の気持ちに寄り添って行けるように努めていきたい。

ペアナーシング手順に沿って業務を行い、問題があった際はカンファレンスを行い情報共有することで

スタッフ紹介

看護師：10名

看護補助者：1名 計11名

研修実績

慢性腎臓病(CKD)予防看護

内視鏡に関する研修

大人の発達障害を知る研修



メッセージ

様々な合併症を抱える患者が増加しており、透析に関連した多くの知識、後術が必要となります。人工透析室は、医師、看護師、臨床工学技士が一つのチームとして関わることで、安心、安全、安楽な透析を提供できるように努めてまいります。

中央手術室

令和6年度活動目標

- ・ 患者様の立場に立った手術看護を提供する。
- ・ 広い視野を持って、業務改善を実施する。
- ・ 院内外に目を向け自己研鑽を行う。

令和5年度総括

手術前訪問を行い、患者様の身体的精神的な情報の収集を行い、安全で安心した手術の提供に心掛けてきた。予定手術のほぼ全例に術前訪問を行う事が出来ている。

整形外科では脊椎手術や人工関節手術、外科では腹腔鏡手術と高度な手術が増えてきている。医療の進歩について行けるように、全体で向上出来るように努めた。

スタッフ紹介

看護師：11名 看護補助者：2名 計13名

<資格認定取得>

災害支援ナース：1名

研修実績

看護管理者研修ACPの推進における倫理的課題への対応

看護補助者の活用推進のための看護管理者研修

医療安全研修「ヒューマンエラーをなくしていくために」

脊椎固定術のコツ 固定術の器械出しが好きになる



メッセージ

地域の基幹病院として、緊急手術も各科担っています。

新しい技術の習得にも努め、地域の皆様に安心して手術に臨んでいただけるよう、これからも学んで行きたいと思っております。

地域医療支援センター

令和6年度活動目標

- ・ 診療報酬改訂に対応できる体制の構築を行い専門性を発揮し、早期退院に向けた支援を充実させる。
- ・ 業務マニュアルを整備し、お互いの業務を助け合える風土を構築する。
- ・ 地域の医療機関との連携を強化して入院患者数の増加を図る。

令和5年度総括

社会福祉士と入退院支援看護師のペア制を導入し、患者情報の共有を効果的に実施し、早期から患者支援の充実を図るように努めました。

社会福祉士の臨地実習を受け入れ、学生のロールモデルとしての体験が更なる自己啓発へとつながりました。

紹介元医療機関からの紹介予約、返書管理を行い、迅速かつ正確に連携医療機関へ情報提供が出来るよう努めました。

定期的に学習会を開催し、質の高いサービス、接遇の向上に取り組みました。

スタッフ紹介

社会福祉士：7名 看護師：6名 事務：6名 メディカルクラーク：18名 計37名

研修実績

日本社会福祉士会全国大会：4名

鹿児島県肝炎医療コーディネーター研修：1名

社会福祉士実習指導者研修：2名

緩和ケア研修会：e-ラーニング：1名

がん相談支援センター相談員研修1・2：1名

がん相談支援センター相談員研修：31名

HIV研修：1名

ACP研修：5名

ACP・意思決定支援研修：2名



メッセージ

令和6年度に組織体制の改編を行いました。

診療支援部・地域医療支援センターに地域医療支援係及び入退院支援係を新たに設け、前年度まで事務部医事課に所属していた医師事務支援室を、同センターに医師事務支援係として再編しました。

それぞれの係で専門性を発揮し、チームワークで院内・地域・社会資源をつなぐ窓口となり、支援を続けてまいります。

また、それぞれが自己啓発に努め、質の高いサービスを提供できるように努めてまいります。

医療安全管理センター

令和6年度活動目標

- ・ 職員の医療安全意识の向上のために、事例分析や危険予知活動を通して安全文化の醸成に努める。
- ・ 感染対策を徹底し、患者さん・職員の感染を防ぐとともに、感染対策意識の向上に努める。

令和5年度総括

- 院内全部署で危険予知能力向上を目的としたKYT（危険予知トレーニング）、医療安全推進週間の実施、SAFETYNEWS（院内情報紙）の発行などを通して、職員全員の医療安全意识の向上に努めた。
- 医療安全文化の意識を高めるために職員からのヒヤリハット報告数の増加に取り組み、前年度の2倍近い報告を得ることができた。
- 手指衛生の推進や感染対策ラウンド等を通して、全職員の感染対策に対する意識向上を行った。
- 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、面会再開や新型コロナウイルス感染症病棟の廃止など環境が変化する中で、継続できる感染対策に取り組んだ。

スタッフ紹介

看護師：3名

<資格認定取得>

医療安全管理者：2名

感染管理認定看護師：1名

研修実績

第18回医療の質・安全学会学術集会：1名

第25回日本医療マネジメント学術集会学会：1名

第10回鹿児島セーフティマネジメント研究会学術集会：2名

鹿児島県看護協会医療安全研修

「ヒューマンエラーをなくしていくために」：1名

鹿児島県看護協会医療安全者研修

「安全文化の醸成」と「危機管理」：1名

第38回日本環境感染学会総会・学術集会：1名



メッセージ

医療安全管理に関して、医療安全文化の醸成が図れるように、各部署のセーフティマネジャーと協働で院内巡視や医療安全推進週間の取り組み等を行い、積極的な活動を行っております。今後は集まったヒヤリハットデータから各部署の課題を明確にして、さらに業務改善活動を推進したいと考えています。

感染管理は、医療施設にいるすべての人を感染から守ることが大きな役割です。各職員が感染対策に意識を持ち、患者さんや家族が、安心して療養できるように取り組んでいます。また、感染管理に関する相談や質問も受けていますので、お気軽にお問い合わせください。

総務課

令和6年度活動目標

総務課目標：全員でベストパフォーマンスを発揮し、経営改善に貢献する。

- ・ 院内会議等での審議事項をスピーディーに病院経営につなげる。
- ・ 各種委員会やプロジェクトチームの活性化を図り、医療及び経営の質を高める。
- ・ 医師、看護師及び薬剤師の確保対策として、訪問活動に努めるとともに奨学資金等貸与制度や各種広報媒体を積極的に活用する。
- ・ 医療情報システムの効率的な運用及び安定稼働に努める。
- ・ 快適な療養環境を整備するため、計画的で適切な施設管理に努める。

令和5年度総括

令和5年度看護師奨学金貸与実績 新規2人、継続12人

施設の巡回や設備の定期点検を強化し、不具合の早期発見による予防保全を行った。

AI問診を活用し発熱外来や小児科当番医の運用効率化を図った。

プロジェクトチームの組織体制を見直し、活性化を図った。

研修実績

「モチベーションマネジメント」研修

「簿記の基本と財務諸表の読み方」研修

「業務改善」研修

医療情報システム視察研修

自衛消防業務新規講習

公正な採用選考のための研修



事務部長 福濱 敏郎

スタッフ紹介

事務部長

総務課長

総務係：9名

財政係：5名

管財係：11名

企画情報係：5名 計30名

<資格認定取得>

- ・ 医療経営士2級：1名
- ・ 第3種電気主任技術者：1名
- ・ 簿記能力検定 上級：1名



メッセージ

地域住民に安心と信頼を与えるため、医療機関の経営と運営を担う事務部門として、院内各部署との連携調整に努め、医師や看護師等の病院職員の安定的な確保と働きやすい職場環境の整備や利用者が安心して御利用いただけるよう療養環境の整備を図るとともに、院外に向けては病院ホームページやSNS、広報誌等を活用し、積極的に情報発信します。

また、令和6年度は医療情報システムの更新を予定しており、機能強化による更なる業務の効率化に努めます。

医事課

令和6年度活動目標

医事課目標：診療報酬の的確な算定による安定的な収益体制を維持する。

- ・ DPC制度など診療報酬制度の適切な運用による診療報酬を算定する。
- ・ 診療報酬の請求漏れ対策の強化、職員の資質向上を図る。
- ・ 未収金の早期回収、法律事務所との連携を推進する。
- ・ 適切な診療情報の管理と情報発信を行う。

令和5年度総括

受付や計算・会計等の窓口業務及び保険請求業務など多岐に渡る業務を通じて、安定した収益につなげるため、近年益々複雑化する診療報酬制度をよく理解し、的確な診療報酬の算定及びその基礎となる診療録等の適切な管理を行いました。

また、患者さんに最初と最後に接する部署であり、「病院の顔」として重要な役割を担っていますので患者さんには親切で丁寧に、そして笑顔で接することを日頃から心掛けました。

スタッフ紹介

医事課長

外来医事係 医療事務：14名 事務補助：5名

入院医事係 医療事務：5名 事務補助：1名

診療情報管理係 診療情報管理士：4名 事務補助：2名

計31名

<資格認定取得>

医療事務：19名

診療情報管理士：7名

がん登録実務初級認定者：2名



メッセージ

安定的な収益の確保・増加のためには、「患者増」と「診療単価増」がポイントであるが、地域の人口が減少していく状況において、「患者増」をすぐに実現するのは難しいと思われます。一方、「診療単価増」は比較的効果が期待できます。

年々複雑化する診療報酬制度において、その内容を正しく理解し請求する事は、病院の収益に大きな影響を及ぼす医事課の大切な役割です。そのため、各部署と連携を密に取りながら、受診患者の状況、施設、診療体制及び診療内容などの算定機会を正しく捉える事が大事です。合わせて、より効率的・効果的に収益増が図れるよう、院内に情報発信していくことが大事であると考えています。

また、「病院の顔」となる部署として、今後とも親切で丁寧な、そして笑顔での接遇を日頃から心掛けます。

DMAT

隊員紹介



院長(統括DMAT)
花田 法久



看護師
中村 元和



看護師
野末 佳秀



看護師
小迫 珠恵



業務調整員
松下 義久



業務調整員
福濱 秋樹

DMATとは、「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており※、災害派遣医療チーム (Disaster Medical Assistance Team) の頭文字をとって略した呼び方です。※平成13年度厚生科学特別研究「日本における災害派遣医療チーム (DMAT) の標準化に関する研究」報告書より

令和6年4月現在、鹿児島県内22の病院で32チームが編成されています。

当院は平成9年3月に災害拠点病院に、平成24年12月にDMAT指定医療機関に指定され、DMATを整備しました。現在、6名 (医師1名、看護師3名、業務調整員2名) の日本DMAT隊員が在籍しており、県主催の訓練に参加するなど、災害に備えた活動を行っています。

平成28年4月に発生した熊本地震では、益城町及び熊本市内の病院等で活動を行いました。被災した病院の被害状況の確認を始め、EMISの入力、軽傷者に対する診療、派遣先病院でDMAT本部の指揮を行うなど、状況に応じて様々な業務を行いました。

近年、日本各地で地震や豪雨による被害が増加しています。出水市では、平成9年の出水市針原地区土石流災害において多数の死傷者が出るなど、甚大な被害を受けました。平成18年の豪雨では米ノ津川が市街地の3箇所から越水し、市街地が広範囲に水没しました。

他にも、出水市内には北東から南西に横切る様に複数の活断層が存在しており、この出水断層帯で地震が起こればマグニチュード7.0程度と推定されています。

当院DMATは、出水市周辺や鹿児島県内をはじめ、大規模災害発生時に多くの命を救えるよう、訓練への参加や情報収集など、DMATの機能強化に努めてまいります。

活動の様子

